



東京技術士会（二宮孝夫会長）は14日、創立10周年記念式典を東京都北区の北とびあ

さらなる発展誓う

創立10周年記念式典

東京技術士会

で開いた。

ビジネスを展開しようとする東京エリアの技術士の受け皿として2008年12月1日に発足。得意分野グループ（SIG||Special Interest Group）を核に独自事業や行政受託事業、連携事業を積極展開してきた10年の歩みを確認するとともに、27年度には会員

2000人、売上高3500万円を目指すなど、さらなる発展を誓った。

冒頭あいさつした二宮会長は、「設立時6人でスタート

し、技術士が対応できる案件受託を目指して17の省庁、東京都、都下の自治体に入札資格申請を行い、実績を積み上げてきた。すべての業務は協会が受託し、その業務を得意とするSIGが遂行する。この10年で会員は100人近くとなり累計売上高は1億円を超えた。自律・自立の精神で全員一丸となって今後も技術

の向上を目指していく。16年には新橋に支部事務所を開設、迅速で適切なサービスを提供していく」と語った。写真。

この後、東京都オリンピック・パラリンピック準備局の斉藤有選手村担当部長が「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会について」と題して記念講演したほか、10周年記念誌の紹介や、電気電子部門、建設部門、機械部門・総合技術監理部門といった各部門で活躍する会員の声も発表した。